

公開討論委員学生

星明治の学友諸君/国文学部の学友諸君/二十九日和泉一〇四番教室では、授業料争いの方針をテーマとして文学部の学生委員討論集がなされた。現在既に始まっている明治の授業料争いの本質は何か、そしていかなる方針をもつて運動を進めていったらよいか、この問題とあつて意見は大きく二つに別れた。即ち反帝闘争の政治闘争として、突極的には、マルショア政治方針を打倒する革命闘争にまで高めてゆかなければならぬという意見と、位置付けの問題として反帝闘争に強化発展させたり、反帝闘争と結合させたりすることには全く意義はない。

理事会の正式決定阻止

星明治の学友諸君/現在我々に最も緊急に対処を要請する学費値上げ問題を事実に基づいて再度ふり返してみたい。温るる二十四日大塚同交会開かれ、その席上、理事会は一方的に同交を拒否した。そのことによつて、緊急に確認されなくてはならぬところの学費値上げの真偽について何ら確信ある返答を回し、そのような巧みな方法をもつてする学校法人明治大学理事の学費の値上げの意図は、万人周知のところとなり、更には、我々学生の見えぬ間耳をもちたない学校側の態度が明らかとなった。二十四日夜、同交決裂した後、ただちに抗議集会を行なわれ、再度我々学生の意見を結集して、二十八日に大塚同交を要求することとなった。

文義

しかるに理事会は、何れ正当な理由づけたり表明せず、「決定前なので話感う必要はない」という言葉によつて、この問題に対する学校当局的、本質的な姿勢をあらわにした。それは、学校当局の値上げ決定から断行まで、不運動の決意によつて押し通そうとすることであり、もう一方我々学生の意見を無視してでも、学内民主主義の基本原則さえも踏みこつてでも自らの野望を遂げようとする決意である。しかも、学費値上げの真意は、学生をラチ外においた所で決定され、発表され、その後学生を説得する工作をしようとしている。(二十四日の同交席上での総長の発言を思い出せ)ここに於いて我々は、かくの如き、具体的にあつたわたれた石の事實、そして大学の教育と自治を破壊しつゝ学校権力の強権的なやりかたに對し何をもつて奮然とてはならぬか。昨耳から身証人と長期に渡つた早稲田の闘いは、学費問題の厚目的の意味を我々に、そして社会的に知らしめてきた。総ての学友は、ただちに、早大斗争の主目的を踏まえ、明治大学の学費値上げ問題に対する取組みを開始しなくてはならぬ。

星明治の学友諸君/我々は、ただちに「学費値上げ反対」の意志を結果し、理事会对する総攻撃の斗を組織し最後まで固闘し抜くことを誓う。
一九六六年六月二十九日 文学部学生会委員討論集参加者一函